

ISSN 2186 — 3989

朝鮮民主主義人民共和国における水産部門活性化

福山 悠介

Vitalization of D. P. R. Korea's Fisheries sector

Yusuke Fukuyama

北 陸 大 学 紀 要
第50号(2021年3月)抜刷

朝鮮民主主義人民共和国における水産部門活性化

福山 悠介*

Vitalization of D. P. R. Korea's Fisheries sector

Yusuke Fukuyama*

Received October 23, 2020

Accepted December 24, 2020

Abstract

In recent years, the fisheries sector of Democratic People's Republic of Korea (DPRK) has been active. This paper analyzes the factors behind the vitalization of the fisheries sector.

DPRK frequently use the phrase "Golden Sea" with regard to fishing. This phrase means that the fisheries sector has become more important. Currently, the Korean People's Army (KPA) plays a key role in the DPRK's fisheries sector. Originally, the main purpose of KPA's fisheries sector was to solve the KPA's food problem. Now, DPRK recognizes that the fisheries sector has the potential to solve general food problems, beyond just the KPA. At the same time, DPRK recognizes as the achievement of Kim Jong Un, and this is represented by the phrase "Golden Sea."

Therefore, the attitude of emphasizing the fisheries sector will not change in the near future. This can be seen from the fact that DPRK has begun to focus on shipbuilding. In fact, some new ships are named "Golden Sea." In addition, D. P. R. Korea has begun to assert the legitimacy of international law regarding fishing in Japan's Exclusive Economic Zone.

Key Words : KPA's fisheries sector, Golden Sea, food problem

はじめに

近年、朝鮮民主主義人民共和国（以下、北朝鮮）の漁船による日本の排他的経済水域（以下、EEZ）、とりわけ日本海の大和堆周辺以北の水域における違法操業が活発化している。水産庁発行『水産白書』の各年版から大和堆における違法操業の数を見てみよう。水産白書には、平成 29 年度版から北朝鮮による違法操業についての記述が行われるようになり、平成 29 年（2017 年）は「北朝鮮籍漁船等による違法操業が増加傾向にある」とした上で、外国漁船に対して延べ 5191 件の退去警告等を実施し¹、平成 30（2018）年は「北朝鮮漁船等による違法操業が増加傾向にある」とした上で、外国漁船に対して延べ 5315 件の退去警告を行ったとしている²。令和元（2019）年は「北朝鮮及び中国漁船による操業」と中国漁船が加わっているものの、続けて「北朝鮮漁船

*北陸大学国際コミュニケーション学部 Faculty of International Communication, Hokuriku University

等の操業を防止するために」と北朝鮮についてより具体的に記述した上で、退去警告隻数が延べ 5122 隻としている³。なお、いずれの年も退去警告を行った件数のうち何件が北朝鮮によるものかは明示されていないが、前提として北朝鮮漁船の違法操業が増加傾向にある旨を述べていることから、その大半が北朝鮮によるものであることは推察できる。

北朝鮮漁船による違法操業が注目される前に問題となっていたのは、北朝鮮からと思われる漂着船であった。2010 年以前も北朝鮮からの漂着船についての報道は散発的に見られるが、まとまったものではなかった。しかし 2012 年に隠岐諸島沖で相次いだ漂着漁船を皮切りに日本海沿岸の各地で漂着船が発見され、中には遺体や生存者も存在した。その後も漂着船は増加し、海上保安庁『海上保安レポート 2019 年版』によると⁴、確認された「北朝鮮からのもの」と思料される漂着木造船は、平成 27 (2015) 年で 45 件だったものが、平成 28 (2016) 年 66 件、平成 29 (2017) 年 104 件、平成 30 (2018) 年 225 件と急増している。こうした漂着船の中には漁具が残されていたものもあり、その多くは漁船であると目される。

北朝鮮に関連する漁業問題は、日本に限ったものではない。2019 年の『韓国経済新聞』報道によると北朝鮮の漁船が NLL (北方限界線⁵) の南側に侵犯した件数は 4 年間で 10 倍に増えたという⁶。また 2019 年 9 月にはロシア EEZ で違法操業していた北朝鮮漁船乗組員が、ロシア国境警備隊員を銃撃する事件が起きた⁷。2019 年 1 年間でロシアが拿捕した北朝鮮漁船は計 344 隻に上ったという⁸。

以上のことから、北朝鮮の漁業活動が全体として活発化していることが見て取れる。違法操業は言うに及ばないが、漂着船問題も古い木造船で比較的遠方まで漁業に出る必要性に迫られたことから発生していると推察できる。では、なぜ近年、北朝鮮の漁業は活発化しているのだろうか。

飯村 (2014) は経済建設と核武力建設の並進路線 (新たな並進路線) の一環として、軍の経済活動への参加があり、それが水産部門で表れたと指摘する。さて、そうして水産部門の活性化が始まったとして、その後、なぜ日本の EEZ 内において違法操業をするまで漁業、水産部門が活発化したのであろうか。本稿では金正恩体制下における北朝鮮の水産部門の活性化の要因について、より具体的な状況を描き出していきたい。筆者は、「黄金の海 (황금해)」というキーワードに注目する。「黄金の海」は 2014 年頃から登場しはじめた。こうした表現に象徴されるように、北朝鮮は水産部門、特に漁業に対して大きな期待を持っているのではないだろうか。

1 新年共同社説から見る水産部門の活発化

まず金正恩政権下における水産部門重視の姿勢を明確にしていきたい。そのために取り上げるのは新年の「共同社説」である。北朝鮮では基本的に毎年、年始に国営新聞 3 社が共同社説を出す。これは北朝鮮指導部の情勢認識や施政方針を知る手掛かりとなる。ではこの中で水産部門についてどのように記載されてきたであろうか。

基本的に水産部門は、農業や畜産業と合わせて食糧問題として語られる。金正恩が最高指導者となって初めての共同社説は 2012 年に出されたものであり、そこでは「人民の食の問題、食糧問題を解決することは、強盛国家建設の焦眉の問題」とし、農業について多く言及した上で「人民生活向上で重要な役割を担っている近代的な畜産基地と家禽基地、大規模果樹農場と養魚基地が自己の能力を最大限に発揮するようにすべきである」と、水産部門としては養魚に触れるのみである⁹。2013 年は「経済建設の成果は人民生活に表れるべきである」とした上で「畜産、水産、果樹の各部門を決定的に振興させ、人民の食生活を改善して一層豊かにしなければならない」とするのみである¹⁰。このように、水産部門は全く無視されていたわけではないが、食糧問題のなかでも優先順位は必ずしも高くなかったことが伺える。

ところが 2014 年の共同社説では、初めて水産部門を農業と切り分けて論じている。「水産部門を発展させるための国家的対策を講じるべき」とし、「最高司令官命令を決死貫徹して大漁をもたらした人民軍隊水産部門の模範を見習い、漁船と漁具を近代化し、科学的方法で漁獲戦闘を力強く展開し、全ての入り江に大漁船の汽笛の音が高く鳴り響くようにし、海での養殖も大々的に行うべきだ」とした¹¹。注目すべきは「最高司令官」である金正恩の命令として記載されていることである。これによって、北朝鮮の水産部門重視路線は国家の重要路線として位置づけられたと言えるだろう。他方、同年 1 月 30 日付『労働新聞』社説に「農業部門が人民生活向上の主要打撃方向とするなら、水産、畜産の両部門は補助打撃方向だと言うことができる」とあり¹²、重要性は増しているものの、この時点ではまだ補助的な認識であったことが伺える。

2015 年の共同社説では、「人民生活向上と経済強国建設で転換を起こすべきである」とした上で、「農産と畜産、水産を三大軸」と表現し、明確に水産部門を食糧問題解決の重要部門に位置付けた。さらに「水産部門で黄金の海の新たな歴史を創造した人民軍隊の闘争気風に見習い、水産業を決定的に振興させて大漁をもたらし、人民の食卓の上に海の香りが漂うようにすべきである」と、新年共同社説として初めて「黄金の海」という表現を用いた¹³。なお、「三大軸」との表現は、2015 年 4 月に開催された最高人民会議第 13 期第 3 回会議、朴奉珠首相の報告でも用いられている¹⁴。また 2018 年 12 月 1 日付『労働新聞』報道に金正恩が水産事業所を現地指導した際にも「農産と畜産、水産を三大軸」として発展させれば食糧問題を解決できると発言しており¹⁵、この方針に変化がないことが伺える。

さて、こうした水産部門重視路線であるが、2016 年共同社説になると熱量が下がる。食糧問題については「人民生活の問題を千万の国事の中でも第一の国事に掲げている」とするものの、農畜水産業自体に対する言及自体が少ない。水産部門に関しては「党の呼びかけに従って建設された畜産と水産の両部門」と畜産との併記の上、「全国の至る所に建設した養魚場と野菜温室、キノコ生産基地が効果を発揮するようにし」と、具体的な記述に関しても養魚が農業と併記となっている¹⁶。

しかし、前年末には 2013 年末に始まった朝鮮人民軍水産部門熱誠者会議¹⁷の第 3 回会議が開催されているため、水産部門に対する重要度が下がったとは考えにくい。実際、2017 年の共同社説では、再び水産部門について農畜産部門とは別項目として掲げている。人民生活向上について「軽工業と農業、水産業を画期的に発展」させると、水産業と農業と同じレベルで記載し、「積極的な漁労戦を力強く展開し、養魚と養殖を粘り強く推し進めるべきである。近代的な漁船をさらに多く建造し、東海岸地区に総合的な漁具生産基地を整え、水産業の物質・技術的土台を強化すべきである」とあり¹⁸、2016 年は養魚だけに言及されていただけであったが、2017 年は「漁労戦」という漁業に関する言及が復活している。

2018 年以降、水産部門に関する言及が少なくなる。2018 年は人民生活に関する言及自体が少なく、「農業と水産部門で高揚を起こさなければならない」とした上で、「造船と船舶修理能力を高め、科学的な漁労作業を展開し、養魚と養殖を活性化すべきである」と述べるのみである¹⁹。2019 年は人民生活に関する言及は増えるが、水産部門に関しては「水産部門の物質的・技術的土台を強化し、漁獲と養魚、養殖を科学化するとともに、水産資源を保護し増殖させて水産業発展の新しい道を切り開かなければならない」と述べるのみで、漁業よりも養魚に比重が置かれている²⁰。さらに 2017 年末、2018 年末ともに人民軍隊水産部門熱誠者会議についての報道が見られなかった²¹。また 2019 年最高人民会議第 14 期第 1 回会議においても、人民生活について農業、畜産業に次いで水産部門について言及したが、「物質・技術的土台の強化」にとどまっている²²。なお、2020 年は共同社説自体がない。

以上、2013 年以降、水産部門が重視され始めたことを確認できる。では、近年の言及の減少は、水産部門重視の姿勢が失われたことを意味するのだろうか。

2 「黄金の海」の持つ意味

筆者は、北朝鮮の水産部門重視の姿勢は「黄金の海」との表現に象徴されると考える。

前章で見た通り、北朝鮮が漁業を重視する方針を明確に打ち出したのは、2014年の新年共同社説からである。この背景には、2013年5月28日付『労働新聞』報道「朝鮮人民軍最高司令官金正恩同志が朝鮮人民軍第313軍部隊管下8月25日水産事業所を現地指導された」との記事と²³、同年12月16日付『労働新聞』でも同じ表題で報道された記事²⁴があると考えられる²⁵。ここで、5月の指導で金正恩が提示した漁獲目標を、12月の報道では達成したと称えている。さらには同年12月26日に史上初となる「朝鮮人民軍隊水産部門熱誠者会議」が開催され²⁶、金正恩が出席し、模範的な幹部らと船長、漁労工ら13人が表彰された²⁷。この熱誠者会議で表彰され、また2014年新年共同社説「最高司令官命令を決死貫徹して大漁をもたらした人民軍隊水産部門の模範」とされたのは、朝鮮人民軍第313軍部隊管下8月25日水産事業所のことであろう。

この時点では、水産物は軍人向けのものであった。例えば前掲2013年5月28日付『労働新聞』では「何としても魚を多く捕獲して軍人らに供給してやろう」「軍人らは十分に食べてこそ訓練もうまくできる」「後方事業に戦闘準備の完成と軍紀確立がかかっている」と²⁸、軍の後方部隊である水産部門であることから、捕獲した魚を軍の食糧問題の解決に用いることが念頭にあったとみられる。

この後、金正恩の動向報道だけではなく、社説などでも水産部門活性化が訴えられるようになるが、水産物の対象は軍だけでなく、人民生活にまで拡大していく。2014年1月7日付『労働新聞』では朝鮮人民軍第534軍部隊が新たに建設した水産物冷凍施設を金正恩が視察したことを報じ、前年の成果を称賛するとともに、「人民軍隊内の水産部門で起きた革新の炎が全国の水産部門でも激しく燃え上がるようにすべきだ」と水産部門活性化を全国展開させるよう打ち出す²⁹。その上で、「本日ここを訪ねたのは全国の育児院、愛育院、初等・中等学院、養老院に対する鮮魚供給の可能性を討論するためだ」「全国の育児院、愛育院、初等・中等学院、養老院に1年365日、一日も切らさずに鮮魚を供給する事業を人民軍隊に任せよう」と、社会福祉事業、人民生活の一部として重視する方針を打ち出す³⁰。同年1月30日付『労働新聞』社説では「食の問題を解決するためには農業を立派に行わなければならないが、水産部門も振興させなければならない」とし、さらに「人民生活向上で水産部門は重要な役割を担っている。われわれが食の問題を解決することができる予備は、海を効果的に利用するところにある」とする³¹。こうして軍の食糧問題だけでなく人民生活の食糧問題を解決する可能性として³²、水産部門を重視するようになったのである。

こうした海を、北朝鮮は「黄金の海」と呼ぶようになる。

2014年11月19日付『労働新聞』で金正恩の朝鮮人民軍第567軍部隊管下第18号水産事業所の現地指導について報じているが、ここで初めて「黄金の海」との表現が現れる³³。「今年は黄金の海の歴史が始まった年だ。人民軍隊は黄金の海の歴史創造の先駆者らだ」と述べた上で、「われわれの食の問題を解決することのできる予備は、海をより効果的に利用するところにある」と、同年1月30日付『労働新聞』社説でも用いられた「予備」との表現を、「黄金の海」と連動して用いる。

その後も「黄金の海」との表現は用いられ、翌11月20日付『労働新聞』も「魚の大漁で黄金の海の新たな歴史を繰り広げていこう」と題する社説を掲げ³⁴、12月7日にも「黄金の海—朝鮮人民軍第567部隊管下第18号水産事業所にて（1）—」と題する政論を掲載する³⁵。そして2014年末に開催された第2回人民軍隊水産部門熱誠者会議で金正恩は「我が党は人民軍隊水産

部門の幹部らを信じ、社会主義祖国の海を黄金の海へと変貌させることを決心した。「人民軍隊水産部門の幹部と漁労工らが大きな覚悟と決心を持って黄金の海の歴史を輝かせていく上で先頭に立つよう訴える」と演説する。そして 2015 年の新年共同社説につながるのである。

では「予備」とは何を意味するのだろうか。長年、北朝鮮では食の問題があったが、その際に水産部門はあまり重視されてこなかった³⁶。そこに最高指導者として就任から間もない金正恩が、水産部門が食の問題を解決しようと気づき、その指導が成果を挙げた。しかも、初めは軍の食糧問題の解決に過ぎなかったものが、人民生活全体の解決を期待されるようになった。こうして水産部門が「三大軸」に格上げされ、また「黄金の海」という輝かしい表現を用いることで金正恩の成果、方針として強調されるようになったのではないだろうか³⁷。

こうして重要性が高まった「黄金の海」は漁業関係者にとっては「戦場」となった。

2014 年新年共同社説で「漁獲戦闘」と掲げて以降、前掲 2014 年 1 月 7 日付『労働新聞』では「人民軍隊内の水産部門が昨年、後方事業であり社会主義守護戦であるという党の意図を胸に深く刻んで魚の大風、魚の雪崩をもたらした」とし³⁸、また前掲 2014 年 2 月 23 日付『労働新聞』には水産事業所建設を人民軍隊に任せるにあたり、「人民軍隊が党の思想戦、党政策擁護戦の第一線に立つて」いるとし³⁹、人民軍隊の水産部門の活動は党を守る戦いであるとする。さらに「水産事業所の建設が終わり次第、直ちに漁労戦闘に突入することができるよう船長、漁労工の募集と、彼らを万能の漁労工として準備させるための事業を今からしっかりと行うべきだ」とし⁴⁰、漁業活動が「戦闘」であるとの認識を示す。そして前掲 2014 年 11 月 19 日付『労働新聞』報道では⁴¹、金正恩が漁労工らの成果を称え、「党の思想と意図を実践で報じていくという非常な覚悟と決死貫徹の精神を高く発揮した」「朝鮮人民軍第 567 軍部隊管下第 18 水産事業所は党の思想貫徹戦、党政策擁護戦のモデル単位だ」とした上で、さらに「集中的な漁労戦を展開し（中略）、党が提示した今年の漁労計画を必ず遂行すべきだ」「水産部門の各党組織と勤労団体組織は彼らが自分の哨所を社会主義守護戦の前哨戦と見なして一日一日を英雄的偉勲で綴なしていくよう思想教育事業を更に強化していくべきだ」「遠洋に出て漁労戦闘を展開する彼ら（後略）」と、軍の水産部門が思想、党の政策、社会主義を守るというだけではなく、漁労工もそこで「漁労戦」「漁業戦闘」を戦う者とする。2014 年末の第 2 回人民軍隊水産部門熱誠者会議に出席した金正恩は、「漁船は党と革命を保衛する軍艦」であり、「一匹一匹の魚は砲弾一発、銃弾一発と同じ」であるとする。そしてそうした魚を捕まえる漁労工を、「肉体的負担に打ち勝って海と戦って勝利した人民軍隊水産部門の幹部と漁労工らを今年の大高潮闘争におけるもっとも偉勲の多い闘志として押し立てて祝福」するのである⁴²。こうした姿勢は翌年も変わらず、2015 年末に開催された第 3 回人民軍隊水産部門熱誠者会議においても、漁業を行う海域である「東海・西海戦域はわが党、わが思想、わが制度を擁護、保衛するための銃声・砲声のない大激戦場」としつつ、「漁獲戦闘が即ち人民軍隊の戦闘準備と人民生活向上に直結した問題」、「水産戦線は社会主義守護戦の最前線」「水産部門の幹部と漁労工らを水産戦線の前衛隊、先鋒隊」と称え、「人民軍隊水産部門の模範的な幹部と漁労工らを党中央委員会の会議室に呼び、感謝の意を表して全国が祝福」するのである⁴³。

こうした「漁労戦闘」との表現は 2019 年 12 月にも登場している⁴⁴。こうした認識が定着しており、今後も継続することが予想される。

3 新たな展開

こうして水産部門への重視は 2015 年までに確立されたが、新年共同社説を見る限り、それ以降（2017 年に一時的に言及は増えるものの）、言及が少なくなっているように見える。では、水

産部門、特に漁業について北朝鮮の重要度は下がっていったのだろうか。筆者は重要性が低下したのではなく、定着したのであると考えている。そう言えるのは、科学技術と造船の重視の姿勢が見られるからだ。

まず、それまでの路線が継続していることを確認したい。2016 年末の金正恩の動静では、朝鮮人民軍 15 号水産所訪問が報じられ、水産部門の成果に対する満足の意を表しつつ、「来年はこの事業所の従業員らのための瀟洒な住宅も建ててやる」「黄金の海の歴史を引き続きしっかりと受け継いでいくことができるとの確信を更に固く抱くことになった」との称賛の言葉を述べている⁴⁵。2017 年 11 月にも『労働新聞』社説で「冬季漁獲戦闘で誇りに満ちた勝利をもたらすことにより、社会主義の海の香りが全国に満ち溢れるようにすべき」と呼びかけ⁴⁶、「党の水産政策を決死貫徹し、黄金の海の全盛期を切り開こう」とする⁴⁷。2018 年 12 月 1 日付『労働新聞』でも金正恩が各地の水産事業所を訪問したことがまとめて報じられ、「漁労戦闘」「黄金の海」「人民軍隊水産部門熱誠者会議」「三大軸」といった表現が用いられている⁴⁸。『労働新聞』での報道量こそ減っているものの、そこで用いられている表現を見る限り、これまでの路線が変更されたようには見受けられない。

これに加えて、科学と造船を重視する路線が見受けられる。そもそも水産部門重視路線が開始した当初から、科学技術重視の姿勢は打ち出されていた。2013 年 5 月 28 日付『労働新聞』の報道が水産部門重視の契機であると繰り返しているが、そこに同年 5 月 26 日付『労働新聞』で報じられた朝鮮人民軍第 639 軍部隊管下東海後方基地での現地指導について触れられている⁴⁹。26 日付報道では「この基地長は企業管理、経営管理を綿密に行って高い生産成果を収めている」とある。28 日付報道ではこの訪問に触れ「朝鮮人民軍第 639 軍部隊管下東海後方基地は、後方事業を立派に行い、漁労作業の科学化を実現して多くの魚を捕獲している。この水産事業所も彼らの事業姿勢と経験を積極的に見習うべきだ」と「科学化」と「事業姿勢」を見習うべきとしている。北朝鮮では様々な事業において「科学化」が表明されるが、水産部門でもそれは鮮明に打ち出される。2014 年 1 月 5 日付『労働新聞』では、水産省が「漁労作業の科学化実現に集中砲火を浴びせている」とし、衛星情報による中心漁場探索プログラムの開発を進めていることや、近代化水準の高い魚群探知機の導入について報道し、具体的な措置について取り上げている。同年 2 月 23 日付『労働新聞』でも金正恩の朝鮮人民軍 1 月 8 日水産事業所建設現場視察について報じ、「ここに近代的な水産事業所を建設するということを決心したとき（後略）」と、近代的な水産事業所を全国に展開する決心について報じている。その後も漁船、漁具、水産事業所、養魚・養殖施設、加工工場など水産部門のあらゆる場面での科学化進展が報じられる。その集大成と言えるのが、前掲 2014 年 11 月 19 日付『労働新聞』で初めて「黄金の海」との表現が出てきた金正恩の動向報道である。ここで「大漁をもたらすための重要な保証は、最先端科学技術と先進的な漁労方法を積極的に導入して水産業を科学化、近代化することだ」との発言であろう⁵⁰。

こうした科学技術重視路線の中で造船が重視されるようになる。そもそも 2013 年 5 月から始まる水産部門重視路線も、発端は金正恩から 4 隻の新型漁船が下賜されたことから始まった⁵¹。2015 年 5 月 9 日付『労働新聞』では金正恩の咸鏡南道新浦遠洋水産連合企業所の現地指導を報じ、水産部門の近代化、科学的な漁労方法の確立を述べた上で「高性能の漁船を多くつくるとともに、既存の漁船を近代化しなければならない」とする。そのために「水産部門に対する投資を増やして国家的な力を集中しなければならない。そのための党的・国家的措置を講ずる」とし、漁船の新造が重視されるようになる。2016 年 12 月 21 日には、1 年間に 50 隻の漁船を建造したことが報じられた⁵²。そして 2017 年新年共同社説では「近代的な漁船をさらに多く建造」、2017 年朴奉珠首相の最高人民会議第 13 回第 5 回会議における 2017 年度の課題報告では「水産部門では近代的な漁船を多く建造」、2018 年新年共同社説では「造船と船舶修理能力」と相次いで掲げられ、新造船建造が本格化していく。

そして「黄金の海」を冠した新造船が建造されるようになる。金正恩が 2015 年に造船路線を打ち出した新浦遠洋水産連合企業所の洪原造船所で、2016 年には「黄金の海-2」号が建造され⁵³、2017 年 7 月に進水式を行った新造船には「黄金の海 091003」号と⁵⁴、同年 8 月と 2018 年 3 月に端川船舶工場で進水式を行った新造漁船には「黄金海 09 - 1004」⁵⁵、「黄金海 09 - 1005」号と銘打たれた⁵⁶。同年 4 月 27 日付『労働新聞』では『「黄金の海」号系列の万能漁船建造、海へ進出』との記事が掲載され、「国家経済発展 5 か年戦略実行期間に複数隻の『黄金の海』号系列の万能漁船を建造する大胆な目標を立て、その実現のための経済組織の事業を着実に組んでいた」と、今後も「黄金の海」号系列の漁船を造船する方針を打ち出す⁵⁷。ラヂオプレスによると、2020 年 5 月 10 日に朝鮮中央放送は「金正恩氏が命名した創造物」の 1 つとして「黄金海」号を挙げたという⁵⁸。そして造船を実行するのが、2019 年最高人民会議第 14 期第 1 回会議で新設されたポストである「船舶工業相」であろう⁵⁹。北朝鮮が最先端の新造船によって漁業を活性化させようという姿勢は明白と言えるのではないだろうか。

おわりに 結論と展望

2014 年から漁業の強化を打ち出したが、当初はさほど強い期待をしていなかったのかもしれない。他の産業で行った増産キャンペーンと同じレベルだったと考えられる。しかしそれが望外に上手くいったため、その後、漁業重視が定着したのではないだろうか。現在はその定着を着実に実施、強化するために、科学技術重視や新たな造船が重視されるようになったため船舶工業相まで任命されたのであろう。

さて、2020 年は北朝鮮漁船による日本海での違法操業が少ないという⁶⁰。しかし、本稿で論じたように北朝鮮における水産部門重視路線は定着し、より実効的となるよう施策を講じている。そうであれば、来年以降、北朝鮮沿岸海域での漁獲量次第では、再び日本の EEZ での違法操業を活性化させる可能性は十分にあるだろう。

この際、考慮に入れなければならないことがある。それは、北朝鮮は大和堆近辺を自国領と主張し始めていることである。2019 年 8 月 23 日、24 日、水産庁の取締船に対し武装した北朝鮮の高速艇が接近した⁶¹。この際、北朝鮮側は海軍のような旗を掲げ、英語で「Territorial Water（領海）」という用語を用いて「即時退去」を要求してきたという⁶²。さらに韓国紙『中央日報』が報じたところによると、2019 年 9 月 17 日付の『朝鮮中央通信』で、北朝鮮外務省の報道官が「8 月 23 日と 24 日に、我々の専属経済水域（排他的経済水域）に違法侵入した日本海上保安庁の巡視船や船舶が我が共和国の自衛的措置によって追い出された」「外交ルートを通じて、我々の水域に対する侵犯と我々の漁船の漁労活動に対する妨害行為が二度と発生しないよう対策を講じるよう日本側に厳重に注意喚起した」「我々が自国の水域から日本側の船舶を追い出したのは、正々堂々たる主権行使」と強調したという⁶³。

こうした主張から、北朝鮮は水産部門重視路線をより強固なものにしたことが伺える。新造船を象徴として科学的な漁業活動を行えるようにするとともに、国際的にも自らの権益を広げることで漁場を確保しようとしているのであろう。

参考文献

飯村友紀「金正恩体制期水産振興政策の考察―「新たな並進路線」下の経済運営の一類型―」日本国際問題研究所（JIIA）『朝鮮半島のシナリオプランニング』、平成 27 年 3 月
斎藤直樹「張成沢粛清事件についての一考察」『慶応義塾大学日吉紀要 人文科学』第 30 号、2015 年、59-83 頁

齋藤頼之「北朝鮮における社会主義経済管理体制の持続と新経済政策の展開」『北東アジア研究』第27号（2016年3月）105 - 122頁

朴斗星「朝鮮民主主義人民共和国における国家経済発展 5カ年戦略の目標と中心的課題」『ERINA REPORT PLUS』、2017 DECEMBER、No.139、8-11頁

金忠誠「最近朝鮮の人民生活の向上において成しとげられている主要な成果」『ERINA REPORT PLUS』、2017 DECEMBER、No.139、13-16頁

アン・スンジン（安承振）「農業と水産部門における生産的建設と人民物質生活向上」『ERINA REPORT PLUS』、2020 FEBRUARY、No.152、38-39頁

1 水産庁『水産白書平成29年度版』54頁。

2 水産庁『水産白書平成30年度版』89頁。なお、海上保安庁『海上保安レポート2018』でも、同海域における北朝鮮漁船による違法操業について述べられている

(https://www.kaiho.mlit.go.jp/info/books/report2018/html/honpen/2_05_chap4.html)、2020年9月20日閲覧。

3 水産庁『水産白書令和元年版』106頁。これに続けて、令和元年10月7日に北朝鮮籍と漁業取締船とが接触した事案を記述している。

4 海上保安庁『海上保安レポート2019』

(https://www.kaiho.mlit.go.jp/info/books/report2019/html/tokushu/toku19_01.html)、2020年9月20日閲覧。

5 北方限界線とは、1953年の朝鮮戦争休戦後、国連軍が引いた海上の軍事境界線のことをいう。北朝鮮側は無効と主張し、より南方での境界線（海上軍事境界線）を主張している。

6 「갑자기 확 늘어난 북목선 NLL 침범…항로 착오? 계산된 도발? (突然、急に増えた北木船 NLL 侵犯、航路の錯誤? 計算された挑発?)」『한국경제신문』2019年7月30日

(<https://www.hankyung.com/politics/article/2019073013261>)、2020年10月17日閲覧。

7 「ロシアが北密漁船拿捕」『読売新聞』2019年9月18日。

8 「ロシア、北朝鮮漁民3千人超拘束 日本海で昨年」『京都新聞』2020年5月28日。

9 「신년사 (新年の辞)」『로동신문』2012年1月1日。

10 「신년사 (新年の辞)」『로동신문』2013年1月1日。

11 「신년사 (新年の辞)」『로동신문』2014年1月1日。

12 「포구마다에 만선의 배고동소리가 높이 울리게 하자 (港ごとに満船の鼓動を高く響かせよう)」『로동신문』2014年1月30日。

13 「신년사 (新年の辞)」『로동신문』2015年1月1日。

14 ラジオプレス『北朝鮮政策動向』2015年5号、No511、15頁。

15 「경애하는 최고령도자 김정은동지께서 동해지구의 수산사업소들을 현지지도하시였다 (敬愛する最高領導者金正恩同志が東海地区の水産事業所を現地指導された)」

『로동신문』2018年12月1日。

16 「신년사 (新年の辞)」『로동신문』2016年1月1日。

17 朝鮮人民軍水産部門熱誠者會議とは、2013年12月に初めて開催されたもので、その年の漁業において模範的な活動をした幹部や船長、漁労工などを表彰するもの。金正恩委員長や朝鮮人民軍幹部、人民武力部幹部らが出席する。

18 「신년사 (新年の辞)」『로동신문』2017年1月1日。

19 「신년사 (新年の辞)」『로동신문』2018年1月1日。

20 「신년사 (新年の辞)」『로동신문』2019年1月1日。

21 ラジオプレス『北朝鮮政策動向』によると2018年12月1日の朝鮮中央放送と平壤放送では金正恩が水産事業所を現地指導し、「年末に開く人民軍隊水産部門熱誠者會議および経験者発表会」と言及し、本會議自体は消滅していないことは分かるが、年末に実施された模様に関する報道はないようである（ラジオプレス『北朝鮮政策動向』2019年第1号、No563、56頁）。

22 ラジオプレス『北朝鮮政策動向』2019年第5号、No567、56頁。

23 「조선인민군 최고사령관 김정은동지께서 조선인민군 제313군부대관하

8월25일수산사업소를 현지지도하시였다 (朝鮮人民軍最高司令官金正恩同志が朝鮮人民軍第

313 軍部隊管下 8 月 25 日水産事業所を現地指導された)」『ロ동신문』2013 年 5 月 28 日。

²⁴ 「조선인민군 최고사령관 김정은동지께서 조선인민군 제 313 군부대관하

8 월 25 일수산사업소를 현지지도하시였다 (朝鮮人民軍最高司令官金正恩同志が朝鮮人民軍第 313 軍部隊管下 8 月 25 日水産事業所を現地指導された)」『로동신문』2013 年 12 月 16 日。

²⁵ 飯村友紀「金正恩体制期水産振興政策の考察—「新たな並進路線」下の經濟運営の一類型—」日本國際問題研究所 (JIIA)『朝鮮半島のシナリオプランニング』、平成 27 年 3 月、52-53 頁。

²⁶ 「경애하는 최고사령관 김정은동지를 모시고 조선인민군 수산부문의 모범적인 일군들과 선장, 어로공들에 대한 당 및 국가표창수여식이 진행되였다 (敬愛する最高司令官金正恩同志をお迎えして、朝鮮人民軍水産部門の模範的な幹部と船長、漁労工たちに対する党と国家表彰授与式が進行された)」『로동신문』2013 年 12 月 27 日。

²⁷ 라디오프레스『北朝鮮政策動向』2014 年第 1 号、No.493、48-49 頁。連日この件が報道され、記念品や記念撮影などについて詳細に報道された模様である。

²⁸ 前掲『로동신문』2013 年 5 月 28 日。

²⁹ 「경애하는 최고사령관 김정은동지께서 조선인민군 제 534 군부대에서 새로 건설한 수산물랭동시설을 돌아보시였다 (敬愛する最高司令官金正恩同志が朝鮮人民軍第 534 軍部隊で新たに建設した水産物冷凍施設を巡視された)」『로동신문』2014 年 1 月 7 日。

³⁰ なお、2018 年 12 月 1 日付『労働新聞』には、金正恩の朝鮮人民軍 1 月 8 日水産事業所現地指導の際「1 月 8 日水産事業所を組織した当時は水産事業所が毎年 3000 トンの魚を捕獲して全国の全ての育児院と愛育院、初等・中等学院の院児と養老院の老人らに毎日 300 グラムの魚を日常的に供給することに関して課題を与えたが、漁労戦闘を力強く展開して今後は 1 日 400 グラム供給することができるようにすべきだ」と発言しており、この路線が継続していることが伺える (前掲『로동신문』2018 年 12 月 1 日)。

³¹ 前掲『로동신문』2014 年 1 月 30 日。

³² 라디오프레스によると 2019 年 12 月にも金正恩が「人民軍隊水産部門が捕った魚を平壤市民に送るよう温情を施した」との報道があったとのことであり (라디오프레스『北朝鮮政策動向』(令和元年 (2019 年) 1 号、No.577、49 頁)、この方針に変化がないことが伺える。

³³ 「경애하는 김정은 동지께서 만선의 배고동소리를 높이 울리고있는 조선인민군 제 567 군부대관하 18 호수산사업소를 현지지도하시였다 (敬愛する最高司令官金正恩同志が満船の鼓動を高く鳴らしている朝鮮人民軍第 567 軍部隊管下 18 号水産事業所を現地指導された)」『로동신문』2014 年 11 月 19 日。

³⁴ 「물고기대풍으로 황금해의 새 역사를 펼쳐나가자 (魚の大漁で黄金の海の新しい歴史を繰り広げて行こう)」『로동신문』2014 年 11 月 20 日。

³⁵ 「황금해, 당의 사상관철전, 당정책옹위전의 전형단위의 모범을 본받자, 조선인민군 제 567 군부대관하 18 호수산사업소에서 (1) (黄金の海 党の思想貫徹戦、党政策擁護戦の典型単位の模範を見習おう 朝鮮人民軍第 567 軍部隊管下 18 号水産事業所で (1))」『로동신문』2014 年 12 月 7 日。

³⁶ その一つの傍証として、北朝鮮が長らく中国に漁業権を販売してきたことが挙げられるだろう。北朝鮮にとって漁業は輸出、外貨獲得の観点から重視されていたものであり、食糧問題としての重要度はさほど高くなかったのであろう。なお、漁業権の販売については国連決議 2371 で「漁業権の直接的または間接的な売却・移転を禁止」しており、これが実際に行われていたことがわかる。

³⁷ 2020 年 7 月 11 日付『労働新聞』には、「黄金の海！ 敬愛する元帥様が私たちの祖国の海に広げてくれた新しい歴史を歌う、誇らしい時代語だ」と、「黄金の海」を時代語との表現で掲げている (「황금해의 새 역사와 더불어 빛내여주신 전사의 삶 (黄金の海の新しい歴史と共に輝かせてくださった戦士の人生)」『로동신문』2020 年 7 月 11 日)。

³⁸ 前掲『로동신문』2014 年 1 月 7 日。

³⁹ 「경애하는 최고사령관 김정은동지께서 조선인민군 1 월 8 일수산사업소건설장을 돌아보시였다 (敬愛する最高司令官金正恩同志が朝鮮人民軍 1 月 8 日水産事業所建設場を巡視された)」『로동신문』2014 年 2 月 23 日。

⁴⁰ 同上。

- 41 前掲『로동신문』2014年11月19日。
- 42 「경애하는 김정은동지를 모시고 인민군대 수산부문 모범적인 일군들과 공로있는 후방일군들에 대한 당 및 국가표창수여식이 진행되었다(敬愛する最高司令官金正恩同志をお迎えし、人民軍隊水産部門模範的な幹部たちと功労のある後方の幹部たちに対する党と国家表彰授与式が進行した)」『로동신문』2014年12月28日。
- 43 「경애하는 김정은동지를 모시고 조선인민군 제3차 수산부문열성자회의 참가자들에 대한 당 및 국가표창수여식이 진행되었다 / 경애하는 김정은동지께서 강령적인 연설을하시었다(敬愛する最高司令官金正恩同志をお迎えし、朝鮮人民軍第3次水産部門熱誠者會議の参加者たちに対する党と国家表彰授与式が進行した / 敬愛する金正恩同志が綱領的な演説をされた)」『로동신문』2015年12月29日。
- 44 「동해전역에서 울려 퍼진 자랑찬 승전포성, 인민군대 수산부문에서 겨울철집중어로전투기간 14만여t의 어획고 기록(東海地域で鳴り響いた誇らしい勝利の砲声、人民軍隊水産部門で冬季集中漁労戦闘期間、14万余トンの漁獲高記録)」『로동신문』2019年12月9日。
- 45 「경애하는 김정은 동지께서 전례없는 물고기 대풍을 마련한 조선인민군 15호수산사업소를 현지지도하시었다(敬愛する金正恩同志が前例のない魚の大漁を成し遂げた朝鮮人民軍15号水産事業所を現地指導された)」『로동신문』2016年12月15日。
- 46 「겨울철물고기잡이전투에서 승전포성을 울려 황금해의 역사를 빛내어나가자(冬季漁獲戦闘で勝利の砲声を鳴らし、黄金の海の歴史を輝かせていこう)」『로동신문』2017年11月7日。
- 47 「당의 수산정책을 결사관철하여 황금해의 전성기를 열어나가자(党の水産政策を決死貫徹し黄金の海の全盛期を開いていこう)」『로동신문』2017年11月24日。
- 48 前掲『로동신문』2018年12月1日。
- 49 「조선인민군 최고사령관 김정은동지께서 조선인민군 제639군부대관하 동해후방기지를 현지지도하시었다(朝鮮人民軍最高司令官金正恩同志が朝鮮人民軍第639軍部隊管下東海後方基地を現地指導された)」『로동신문』2013年5月26日。
- 50 前掲『로동신문』2014年11月19日。
- 51 前掲『로동신문』2013年5月28日。
- 52 라디오프레스『北朝鮮政策動向』2017年第1号、No.535、55頁。
- 53 金忠誠「最近朝鮮の人民生活の向上において成しとげられている主要な成果」『ERINA REPORT PLUS』、2017 DECEMBER、No.139、15頁。
- 54 라디오프레스『北朝鮮政策動向』No.544、2017年第10号、51頁。
- 55 라디오프레스『北朝鮮政策動向』No.545、2017年第11号、57頁。
- 56 라디오프레스『北朝鮮政策動向』No.554、2018年第6号、26頁。
- 57 「《황금해》호계열의 만능고기배 건조, 바다로 진출(《黄金の海》号系列の万能漁船建造、海へ進出)」『로동신문』2018年4月27日。
- 58 라디오프레스『北朝鮮政策動向』No.584、2020年第8号、41頁。
- 59 라디오프레스『北朝鮮政策動向』No.567、2019年第5号、22頁、45頁。
- 60 「【石川】北朝鮮船 違法操業 大和堆で激減 海保警告 今季まだゼロ」『中日新聞』2020年8月6日。
- 61 「北公船 水産庁船を威嚇 小銃で武装 違法操業関与か 8月 大和堆周辺」『読売新聞』2019年9月13日。
- 62 「小銃で威嚇の北朝鮮公船 大和堆で「領海」主張し退去要求」『産経新聞』2019年9月26日。
- 63 「北、동해 대화퇴 영해권 주장…日순시선에 퇴거 요구(北、東海大和堆領海權主張…日巡視船に退去要求)」『중앙일보』2019年9月27日。